

施策番号	1404		
施策名	生活しやすい社会環境の整備		
概要	ユニバーサルデザインを総合的に推進することにより、すべての人が個人として尊重され、その能力を最大限に発揮し、社会参加できる社会環境を整備する。		
担当局・部室	保健福祉局・保健福祉部	共管局・部室	都市計画局・建築指導部
上位政策	14 障害者福祉		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		24年度	25年度	26年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	市民向け印刷物の情報保障配慮率(%)	a	c	47.9	65.2	80	81.5%	b	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	e	a	434	497	500	99.4%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		c	b	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度回答					有効回答 者数	評価
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1	バリアフリー（高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁（バリア）を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること）などの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。	31	166	184	87	35	503	c
		6.2%	33.0%	36.6%	17.3%	7.0%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						25 年度	C
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	c			
(重み付けの理由) ユニバーサルデザインの視点に基づく社会環境を整備することにより、全ての市民が生活しやすくなるのが重要であり、その度合いを図る市民生活実感調査の方に重みを置く。								
(原因分析) 【客観指標】●市民向け印刷物の情報保障配慮率については、目標値の達成には至なかったものの、積極的な周知に取り組んだ結果、今年度、過去最高の数値となった(㉔47.9%→㉕65.2%)ため、c→b評価と改善した。 ●バリアフリー優良建築物の件数については、平成25年度、バリアフリー対象建築物の協議件数が前年度以上に増加傾向にあったことから、検査受検件数も増加し、検査済証交付件数が63件増加となり、3年連続a評価と高い評価で安定している。 【市民の実感】バリアフリーやユニバーサルデザインに対する関心と理解が広がっていないことから、「どちらとも言えない」との回答が3割を超え、c→c評価となった。							24 年度	C

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	みやこユニバーサルデザインの推進	24,762	18,652	悪い	保健福祉局
2	生活保護適正化推進事業	928,610	937,351	－	保健福祉局
3	生活保護自立支援事業	1,487,972	1,525,838	良い	保健福祉局
4	生活困窮者に対する相談支援体制の充実強化	－	27,387	－	保健福祉局
5	いきいきハウジングリフォーム（京都市重度障害者住宅環境整備費助成事業）	39,716	40,575	悪い	保健福祉局
6	重度障害者タクシー料金助成事業	225,380	237,171	良い	保健福祉局
7	重度身体障害者緊急通報システム貸与事業	6,167	7,115	普通	保健福祉局
8	身体障害者福祉電話設置維持事業	2,831	2,867	普通	保健福祉局
9	北合同福祉センター耐震改修事業	14,655	191,881	－	保健福祉局
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

- みやこユニバーサルデザイン推進主任連絡会議の開催や職員研修を通じて、庁内の各事務事業におけるユニバーサルデザインの取組を一層推進し、市民向け印刷物の情報保障配慮をはじめとした生活しやすい社会環境を整備していく。
- また、人にやさしいサービス宣言、みやこユニバーサルデザイン賞、ユニバーサル上映補助、ユニバーサルデザイン消費者啓発等の取組や積極的な情報発信を通じて、広く市民にユニバーサルデザインが普及するよう努めていく。

施策名	1404	生活しやすい社会環境の整備				
-----	------	---------------	--	--	--	--

指標名	市民向け印刷物の情報保障配慮率（％）					
-----	--------------------	--	--	--	--	--

担当課	保健福祉総務課		連絡先	2 2 2－4 1 6 1		
-----	---------	--	-----	---------------	--	--

1 指標の説明

本市が発行する市民向けのパンフレット、リーフレット等における情報保障の配慮がされている割合

2 指標の意味

障害のある方も一般市民と同様に合理的な配慮がなされ、生活しやすい社会環境が整備されている進捗を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各局区等から10,000部以上発行している広報印刷物において、配色の工夫や外国語、点字版の作成等の対象者に応じた何らかの配慮を行った件数の割合（年度末に確認した実績に基づく。）
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	47.9	65.2	17.3%上昇	80	平成27年度目標値を達成するために当年度達成すべき数値	81.5%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		100	27年度	65.2%	
各局区等から発行する10,000部以上の全ての広報印刷物において、何らかの情報保障の配慮を行う					

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成状況が
a：90%以上
b：70%以上～90%未満
c：50%以上～70%未満
d：30%以上～50%未満
e：30%未満

6 基準説明

当該指標については、平成27年度目標値100%に向けて、目標値（平成23年度50％、24年度70％、25年度80％、26年度90％、27年度100％）を上昇させていくこととしており、当該目標値に対する達成状況について90％以上をaとし、以下20％刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
a	c	b

1 指標の説明

バリアフリー化された建築物（施設）の件数

2 指標の意味

「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	434	497	63件増	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計	99.4%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		500	32年度	99.4%	
過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計					

5 評価基準

最新数値と前回数値との比較
a：10件以上の増加
b：4件～9件の増加
c：3件の減少～3件の増加
d：4件～9件の減少
e：10件以上の減少

6 基準説明

これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。

7 評価結果

24	25	26
e	a	a